

時層を結う



浅原 麻緒
建築設計計画研究室



□コンセプト

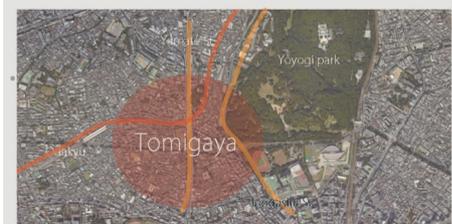
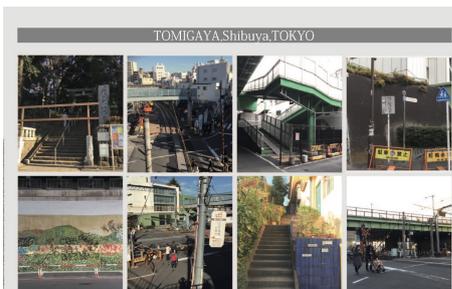
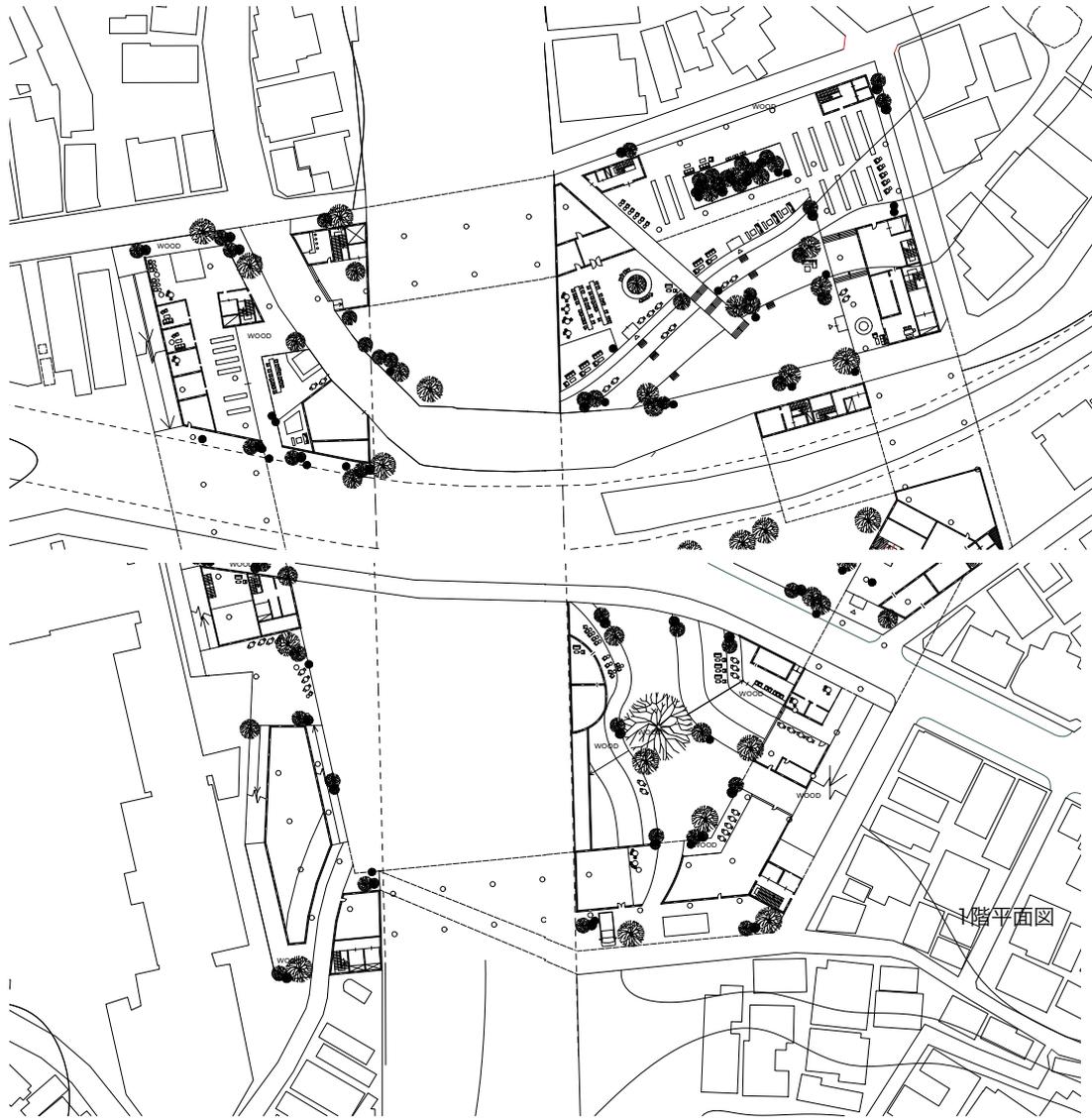
時代の流れが積み重なる都市—東京は自然の微地形に沿った町づくりから道路や鉄道など交通網を軸とした街づくりへと急速な成長を遂げた。現在は、スマートフォンやAIの発達そこから生まれる物流、人流の変化が著しい。また流れのスピード感や量よりも日々の質が重視されるようになった。積み重なった歴史は現在の流れに対してギャップを生み出している空間が目立つ。そこで私は時流のギャップを結ぶ空間を設計できないかと考えた。

□プログラム

都市の時層から生まれた流れのギャップを結ぶ設計を提案した。ケーススタディーとして渋谷区富ヶ谷にある代々木八幡駅周辺を選定し、直交するように存在する首都高環状線の山手通りを結ぶような空間作りを目指す。地形、鉄道、環状線の層に対してこれらを囲うリング状の人工的な層を生み出す。1-3Fは商業やオフィス、4Fで環状線から入れるパーキング、5Fはレジデンスとホテルになっている。

□デザイン

元あった区画に対して、そこから20m幅のリングを創る。真ん中にできた広い空間は地域の人々の行き来する流れを良くし、緊急時には避難場所の拠点となる。



<p>微地形期 小規模な起伏が折り重なりあって複雑な地形を作っている。</p>	<p>文明開化期 低密度な土地利用。道路は未発達で自然な地形がそのまま残っている。</p>	<p>明治期 在来の道路から小さな街路が樹枝状に派生していく。</p>	<p>高度成長期 道路開設が進み、現在と変わらない道路網が形成される。</p>	<p>地形に沿ったまちづくりからスピード重視の社会へ急速に変化していった東京の流れは人々の生活を豊かにしていった。</p>
--	--	--	--	---

